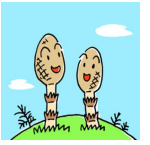


都市計画道路を考える 小金井市民の会

暫定第1号 2016年4月24日
発行 都市計画道路を考える
小金井市民の会
連絡先 電話090-7847-3968 事務局:阿部

「都市計画道路を考える小金井市民の会」が発足 ”はけの自然と住環境を守ろう”



3月25日、東京都は今後10年以内に優先整備する道路計画として、小金井の2路線を含む320区間226kmを決定しました。

それに先立つ3月13日、はけの自然と住環境を守るため、道路計画の見直しを求めて、市民125人が集まり、「都市計画道路を考える小金井市民の会」の発足の会を開きました。

会は、道路住民運動全国連絡会の長谷川茂雄さんが、東京都の道路計画は、①人口減少も無視して進められようとしている、②半世紀以上も前の計画に固執し、一向に見直しされない道路計画であり、③過大な交通量などの予測であつて、「路線選定根拠」「検討データ」「検討会議録」も公表されず、検討会議は非公開で結果のみの公表であり、みなさんの運動で計画をストップできるとお話されました。



道路計画地に住む権利者や、道路建設の見直しの運動を始めた方からの報告もありました。会の役員として、共同代表4人と世話人12人と事務局・会計、会計監査を選出し、会のアピールを採択しました。

都市計画道路小金井3・4・11号線とは

3・4・11号線外とは

小金井市の2つの優先整備路線は、54年前に、住民への説明も、同意も必要のなかった旧都市計画法で認可されたものです。当時は畑や林が多かったところですが、現在では、住宅が立ち並ぶ地域。同時に「はけ」と呼ばれる国分寺崖線と野川や武蔵野公園を分断する道路計画となっています。緑豊かな自然を求めて住み始めた住民にとっても、また、四季を通じて、小鳥がさえずり、草花が生い茂る「はけ」の近くや野川を散策する市民にとっても、憩いの場をこわすこととなります。



地図は、はけの文化と自然をまもる会作成

近くには小学校と中学校があり、この通学路を分断する自動車が行き交う道路ができれば、危険がいつぱいです。

東京都は、道路選定の理由に防災と交通安全のためとしていますが、大型道路は防災には役立たないことは阪神大地震で証明済み、また、大型道路こそ、交通事故が多くなることでも事実が証明されているのではないのでしょうか。

都市計画道路のパブリックコメント

小金井2路線で、都全体の意見数の51%

★小金井3・4・1号線に対する意見

●地域の貴重な資源である国分寺崖線「はげ」や野川などの自然、景観、歴史・文化を破壊する上、高額の実業費となる道路整備は行うべきではない。野川第一・

小金井2路線
見直し意見が96%

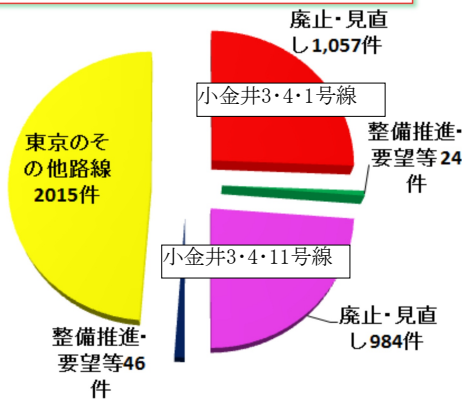
第二調節池地区自然再生全体構想や文化財の保存の考え方等と道路整備の計画との整合はどのようになっているのか

●当該道路の整備は新小金井街道までの行き止まりとなっており、周辺の道路交通環境はかえって悪化すると思う

●当該路線ができて、東側の地域から市役所や武蔵小金井駅に向かう際は、はげを通過せず、平坦にアクセスできる連雀通りを使い続けることになるので、必要性を感じない

●「地域の安全性の向上」を主な選定理由として挙げているが、地域を走行する自動車のスピードが上がり、かえって危険になるように感じる。現地の地形等多面的に検討して計画すべき

パブリックコメントの路線別意見の件数
(東京全体の意見総数 4,126件)



★小金井3・4・11号線外に対する意見

●人口減少や交通量の減少が想定される中、莫大な税金の投入と武蔵野公園の自然を失ってまで、当該路線を整備する必要性を感じない

●まとまった宅地開発で空間が確保されており、延焼遮断機能は確保されている

●当該道路の整備の必要性について説明がない。最近建替えた家も多くある中、整備の必要性を理解できない

●高齢者や子供たちの安全性や地域コミュニティの存続を脅かす計画、武蔵野公園の野球グラウンドを削られる計画で許容することはできない。既存道路を活かせる線形に変更し、公園を避ける計画とすべき

●この道路がつながると、終端の五日市街道の渋滞はかえって悪化

●地域の貴重な資源である国分寺崖線（はげ）や野川などの自然、景観、歴史・文化を破壊する道路整備は行うべきではない。現状の道路交通環境に特に問題は感じていない。野川第一・第二調節池地区自然再生全体構想等との整合はどのようになっているのか

フェイスブックをご覧ください

フェイスブック 都市計画道路を考える小金井市民の会

【編集後記】市民の会への入会ありがとうございます。現在の会員は72人です。みなさんに、会報第1号をお届けします。24日の「学習会」に間に合わせるために、急いで作成したため、暫定1号としました。みなさんのご意見をおまちしています。

【これまでの経過】

2015年

12月18日 東京都は、「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）（案）」を公表、選定された優先整備路線の中に、小金井市市内の2つの路線（小金井3・4・1号線と小金井3・4・11号線外）が含まれていることが判明しました。

同日からパブリックコメント開始

2016年

1月31日 道路問題を考える連絡会の第1回呼びかけ人会議開催（3月13日に小金井の連絡会の発足を開催することを確認）

2月3日 都段階の都市計画道路問題情報交換会、小金井の関係者も参加

2月11日 第2回呼びかけ人会議

3月6日 第3回呼びかけ人会議

3月8日 市議会環境建設委員会3つの陳情書の審査（「はげの文化と自然をまもる会」の陳情書は3/23で、4500筆の署名に）

同日 西岡市長「都の事業なので、市が判断する立場にない」と答弁

3月9日 共同代表・世話人会議

発足の会の準備、会の名称を「都市計画道路を考える小金井市民の会」（略称：道路市民の会）とすることを確認

3月13日 「都市計画道路を考える小金井市民の会」の発足の会開催

3月14日 道路市民の会として、都議会の全会派に要請文を渡し、協力要請。都知事に見直し要請文提出

3月23日 小金井市議会で、議員提出の見直しを求める意見書が可決（賛成17名、反対6名：自民など）

同日 西岡市長は予算特別委員会で、「早期にすすめるのではなく、景観や環境を守ることを検討する必要がある」と答弁し、22日に東京都に向いて、同趣旨の意向を伝えたことを明らかにした。

3月28日 市議会で、「はげの文化と自然をまもる会」と「野川ほたる村」ほかの提出の3つの陳情書採択

3月30日 東京都は「都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」の発表（小金井の2路線を含む）。東京都はパブリックコメントの結果も公表

同日 第1回世話人会開催。

4月7日 市民の会のフェイスブック開設

4月10日 第2回世話人会開催

4月21日 市議会各会派へ協力要請（共同代表）

4月24日 防災・道路問題学習会（講師：NP0法人くらしの安全安心サポーター理事長 日本大学理工学部・大学院講師 中村八郎さん）

都市計画道路を考える「道路市民の会」発足会で採択されたアピール文を紹介します。

住み続けられる緑と文化が薫る小金井のまちをめざして、 私たちは東京都の2つの道路計画の見直しを求めます

東京都が突然3・4・1号線（中町1, 4丁目、前原町3丁目、貫井南町2丁目、幅員16m延長2060m）、3・4・11号線（東町5丁目、幅員18m延長830m）を整備する計画案の発表したことを受けて、私たちは、正しい情報の交換を通して事実を共有し、計画案の実際を知り、それが私たちの生活に及ぼす影響や対応について共に学び、知恵を出し合い、一緒に考えて未来に向けて提案していくために、私たちは撤回や見直しを求めようと、考え方や立場の違いを超えて、暮らしや自然環境を守るべく、自由参加のもとに今日一堂に集まりました。

私たちは、二つの都市計画道路の整備には以下の問題があると考えます。

第1に、この地域は国分寺崖線・野川公園・武蔵野公園を有しており、小金井市にとっても東京都にとっても、貴重な自然環境と文化の足跡を壊すこととなります。

東京都は、はげの森(国分寺崖線の自然林)について、景観とみどりを保全する区域に指定しています。はげの森は、東京都と多摩地域の地形的な景観を構成する重要な要素であり、景観を保存するためにも簡単に開発し変更するべきではありません。

また野川第1、第2調節池とはげの斜面は、自然再生事業地に指定され、再生事業も推進されつつあります。自然環境の保全と道路計画は矛盾するのではないのでしょうか。さらに該当する区域には大岡昇平氏の小説「武蔵野夫人」の舞台となった土地も含まれています。唯一無二の小金井市の文化の足跡も消してしまうのでしょうか。

緑と自然と文化を残し、将来まで享受できるまちをつくることは未来に対する私たちの責任です。

第2に、将来設計や住環境にも大きくかかわる問題にもかかわらず、市民には説明もなく決定されようとしており、「寝耳に水」の計画です。

地権者は、突然の道路整備によって、終の棲家を失います。小金井市には代替地が少なくこの地域から出ていくことになり人口減に繋がります。近隣の住民は、通過車両による排気ガス、騒音、振動、交通事故など住環境が悪くなることは明らかです。市民の生活のリスクにかかわる計画を、「50年前に決定したから」と一方的に押しつけることは理解できません。今は50年前と違って住宅密集地に変化しています。主権者である市民に説明もせず、事業をおしつけることは許されません。

第3に、2つの道路の整備によって地域が分断され、コミュニティが破壊され、児童・生徒の生活にも影響が出ます。

災害が起こった時には地域の絆が大切でその果たす役割が大きいかかわらず、道路によって町を分断することは防災力を弱めることとなります。また、南小学校、前原小学校、第一小学校、第二中学校、東中学校、南中学校の通学路で、児童、生徒の安全が保障されるのか、疑問です。

以上のような問題があるにもかかわらず、東京都は、小金井市民に対し相談も説明もありません。小金井市は「東京都の独自の事業であり、東京都が決めること」と他人事の回答です。市長が掲げられている「市民に役立つ市役所」とは程遠いと言わざるを得ません。小金井市と市民にとって大切な自然と文化の足跡を壊し、市民の生活環境を大きく変えてしまうことに、小金井市と市長がこのような対応をされることは大変残念です。

東京都と小金井市は、小金井市内のはげの自然と住環境を守る立場で、以下の項目を実行していただくよう、要請します。

1. 何故この二つの路線が優先整備路線の計画に入ったのか、東京都は住民が納得できる理由を明確に示すこと。
2. この都市計画道路は昭和37年に決定された計画で、当時と現在では社会経済状況（住環境）が大きく変わっています。住民の合意が得られない2路線の事業化を見直すこと。
3. 住環境を破壊してまで16m、18m道路の必要性はありません。既存道路の改良・再生を優先すること。
4. 災害に強いまちづくりのためには、住宅の耐震補強や耐火構造への支援を優先すること。

2016年3月13日 都市計画道路を考える小金井市民の会発足の会・参加者一同



はげの道から望むムジナ坂

市議会各会派に協力要請

4月21日、市民の会共同代表は、市議会各会派（下記）に、道路計画の見直しを求める運動への支援要請を行いました。

【自由民主党、日本共産党、公明党、民主党、リベラル保守の会、生活者ネットワーク、緑・市民自治こがねい、こがねい市民会議、小金井自由民主】



計画道路予定地に住んでいる方から

私は35年前に調布の深大寺の野川べりから子どもたちのため、新居候補地を探し回った結果、やはり野川近くの武蔵野の自然に恵まれた東町に選定しました。

武蔵野公園やはげの道など子どもたちにとっては本当に恵まれた環境で毎日真っ黒になって遊びまわる姿を見ておりました。将来のこの近隣の子どもたちへの安心できる住環境のことを考えますと、都市計画道路を考える小金井市民の会の4つの要請項目を達成するように皆さまと一緒に運動を進めたいと思います。

東町の一地権者より

「道路市民の会」発足の会の講演から

住民無視の計画道路に声をあげて行くことが大切

道路住民運動全国連絡会の長谷川茂雄さんは、都の道路計画は、交通量、交通需要、物流、人口は、過大な予測に基づくもので、「路線選定根拠」や「検討データ」や「検討会議録」が公表されず、環境改善など視野になく、木々などの緑を伐採しながら、「道路整備で緑が増える」と述べ、住民、都民の意見が反映されていないことを明らかにし、他の府県では、見直しが進められていることを示し、都内でも住民運動で建設をストップさせている事例を紹介し、声をあげて行くことが大切と強調しました。

貴重な動植物、町を分断する計画道路

東町五丁目の居住者から、はげの地域には「筆竜胆（ふでりんどう）、金蘭、銀蘭などの植物の希少品種が生息し、動物も狸の親子がムジナ坂に現れており、大鷹も生息されているとも言われている。地下水脈も切られると動植物が生息できなくなる、縄文土器が埋蔵されている地域でもあり、これが破壊されれば取り返しがつかないことなどが報告されました。

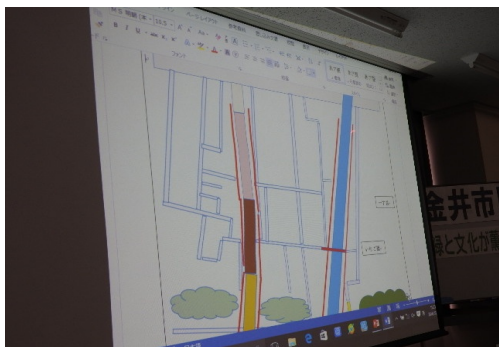


筆竜胆（フデリンドウ）の花

また、東京都でおこなっている3箇所の「自然再生事業」のひとつが、

この地域なので、一方で再生事業、他方でこれを壊す道路計画は無駄遣いであることを指摘。

3・4・11は、はげの傾斜がきつく、また、高圧送電線もあり、道路勾配を緩やかにしなければ行けないので、西武線と同じような連雀通りから切通にして道路が作られることになる可能性が高く、西武線とこの道路に囲まれた地域は東西に行ききできる箇所が1箇所くらいとなり離れ小島のようになってしまう。3・4・1号線も同じで、南北に分断されてしまい、移動に不便な町になってしまうと指摘しました。



計画道路と西武多摩川線の間の地域の説明

都議会全会派に要請

発足の翌14日、会から6人が都議会と都庁を訪問し、発足会で採択されたアピール（要請書）を提出しました。

要請した都議会会派は、東京都議会自由民主党、都議会公明党、日本共産党東京都議会議員団（懇談・曾根はじめ都議、白石たみお都議）、都議会民主党、都議会維新の党（懇談・石川良一都議）、かがやけ Tokyo（応対・音喜多駿都議）、都議会生活者ネットワーク、無所属（深呼吸のできる東京）、無所属（東京みんなの改革）、無所属（東京維新の会）全ての会派です。

都知事要請では、都市整備局の都市基盤部 街路計画課 区部街路計画係課長代理の柴田辰美氏にお話しして、手渡しました

西岡市長、市民と議会の声に押され、「環境守ることを都に伝えた」と

西岡市長は、これまで、都市計画道路は「都の独自の事業であり、市が意見を言う立場はない」と市議会に答弁していましたが、市民の声におかれ、予算特別委員会、「3・4・1号線については都市計画マスタープランに基づいて対応したい」「3・4・1号線、3・4・11号線については早期にすすめるのではなく、景観や環境を守ることを検討する必要があります」と答弁し、これまでの答弁を変更しました。さらに、西岡市長は、22日に東京都に出向き、このことを伝えたことを明らかにしました。



（上）日本共産党都議団と（左）維新の党都議と

見直しを求める意見書（議員提案）と2つの団体から提出された陳情書が可決

3月23日の小金井市議会、「都市計画道路の見直しを求める意見書」が可決されました。見直しを求める市議会4会派が共同提案したもの。

意見書に賛成した会派は、日本共産党、公明党、生活者ネット、緑・市民自治、リベラル保守、こがねい市民会議。反対は、自民党、小金井自由民主です。

また、はげの文化と自然をまもる会と野川ほたるの会が提出した2件の陳情書も可決されました。